

園名 高取町立たかとり幼稚園

はばたくなら⑤・⑥

これからの幼小連携に繋げるために
～子どもたちの主体性が発揮できる取組について～

5歳児 5月～

取組について

○子ども一人一人が自ら安心・安全な園生活を送る中で、身近な環境と出会い、心動かす体験を積み重ねることで、自ら考え、主体的に行動しようとする姿になると考える。そこで、物の特徴を捉え、友達と一緒に試したり、考えたり、工夫したりする経験を積み重ね、自尊感情や規範意識、学習意欲を育てるためには、子どもたちにとってどのような体験や経験を積み重ねていくことが大切なのか考えていきたい。

【めざす幼児像】

- ・いきいきと遊ぶこども
- ・のびのびと表現することも
- ・考えて行動することも
- ・自分や人を大切にすることも

○去年まで数回、小学校との交流を行ってきた。幼稚園が4月に移転し間近に先生や児童達の様子を見ることで、より一層憧れを抱いたり、意欲的な態度に変わり小学校への期待が膨らんできている。遊びの中の学びを大切に自分の思いや考えを伝える力を付けていきたい。そして、幼小連携へと繋げていけるようにしていきたい。

実践事例⑤ 主体性を育てる ～三つ編みをしよう～

子どもの姿

去年の年長児が、スズランテープを使って三つ編みをしている姿を思い出し、保育室のワゴンの中に置いてあったスズランテープ3本を切って、三つ編みがしたいと作り始める子どもの姿があった。周りの子どもたちは、編んでいる友達の姿を見ながら、次第に興味・関心をもち一緒に編み始めた。

ねらい

- 共通の目的の実現にむけて試したり、工夫したり、協力したりする
- 素材の特性を生かしながら友達と一緒に作ることで、充実感や達成感を味わう

子どもの姿 保育者の思い・願い 環境構成・援助 遊びの中の学び

いつでも三つ編みができるようにワゴンにスズランテープを準備しておく



三つ編みができるようになると、次に細くて硬い三つ編みを作る姿が見られてきた

どうやって作るの

私もやってみたい!

おしえて

こうやって力を入れてするねんで

力加減で綺麗にできるかどうか気付くといいな

お互いに友達と教え合いながら作れたらいいな

編み方を聞きながら、保育者も子どもと一緒に作ることを楽しむ

- ・スズランテープ3本で三つ編みができることを知る
- ・力を入れて編んでいくと硬くて細い三つ編みができる
- ・編み方がわからない友達にわかりやすく教えている (自尊感情・規範意識)

三つ編みをしている子どもたちに「綺麗な色ができてきたね」とそれぞれに声をかける

細くて硬い三つ編みを作ることから次に配色を考えていくようになる

遊びがまだまだ継続して欲しいので、次に配色に目が向くように言葉をかけていこう

他にもたくさん色があることを知らせ、子どもたち自ら選べるようにしておく



ピンクと水色と合わせたら、綺麗なな

黄色もまぜたの!

今までは、綺麗に編むことを重視していたが、次第に子ども同士で楽しそうに相談しながら配色を考えて編む姿になってきた

- ・自分で配色を考えるようになる
- ・友達と配色を考え気付いたり、試したりする
- ・最後まで楽しくやり遂げる力が付く (自尊感情・規範意識・学習意欲)

その後、たくさんの三つ編みができたので、つなぎ合わせて縄跳びをして楽しんだり、異年齢児のクラスにプレゼントをし一緒にしっぽ取りをして遊んだ。子どもたちが工夫したり、試したりし充実感や達成感を味わいながら三つ編み作りが長期間に渡って続いている。

実践事例⑥ 就学前教育で育みたい学び ～小学校はどんなところ？～

4月に町内2園が合併し小学校と隣接した

①小学校の様子が気になる



何してるのかな

○小学校に対して興味や関心をもつ

つばやき

育みたい学び

②小学校の作品展に招待されて校長先生との関わりができる



校長先生、これで遊んでもいいですか？

○校長先生に親しみをもつ
○自分の感じたことを話す

③お店屋さんごっこに招待された幼小交流会



お兄ちゃん、お姉ちゃん、大きいな

○あこがれや期待をもつ
○一緒に遊んだことでより親しみや安心感をもち小学校の雰囲気を感じる
○小学生と仲良くなる

お姉ちゃん次、これしよう

④年長児になったら小学校生活に向けて一人一人の机と椅子に座る取組



1年生になったみたい！

○自立
○一人で座る

今日は、どんな話をしようかな！

○自分の思いや考えを皆の前で伝える
○友達の話の聞いたり、質問したりして落ち着いて取り組む習慣を付ける



(まとめ)

・一人の幼児の発した言葉がきっかけになり三つ編み作りが始まった。興味をもち、自分からやってみたいと編み始めた子どもたちの主体性と新しい環境と出会う状況をつくっていくという保育者の意図をバランスよく取り入れたことで、一つの遊びが長期に渡って続いたと思われる。

・隣接する小学校を眺めたり、児童の授業の様子を見たり、チャイム音・流れてくる音楽を聴いたりすることで、小学校に対する期待や憧れをもつようになってきた。子どもたちにとって、今まで見られなかった小学校の様子が身近になり、幼小連携へ一歩踏み出すことができた。

(成果)

・一人一人の子どもが、主体性をもって遊びを進めていくには、好きと思える遊びがあり自分から進んでやってみたいという意欲が原動力になると思う。保育者は、子どもの遊びのおもしろさや楽しさを理解し、共感することで子どもたちの意欲的な態度が育ち、達成感や学びへとつながれることがわかった。

・今年、小学校と隣接したことで子どもたちは、小学校に対する憧れや期待をもつようになった。幼小交流会の後、5年生にお礼をしたいと言ってプレゼントを渡すなどのことから、より一層憧れの気持ちや期待感が深まることになった。

・就学前教育で育まなければならない学びを小学校へつなぐためには、主体的な遊びの中で、子どもに何を育てることが大切であるかを捉え、その遊びで必要な経験を積み重ねることが大事である。今後も保育者の援助や環境構成の在り方を考えることが必要であると思った。

(課題)

・主体性を育むための教育に取り組むには、保育者がしっかりと意図やねらい、又、環境構成をじっくりと考え、子どもたちへの学びに生かせるため、園内研修の充実を図り、保育者の資質向上に努めなければならない。

・小学校の隣に移転し、今まで出来なかった教師間の交流を深め、幼小連携の体制づくりに取り組んでいきたいと思う。その中で見えてくるいろいろな課題に小学校の先生と向き合い、それぞれの教育の充実に向けた取組の見直しを考え、「学ぶ力」「生きる力」が育まれるようにしていかなければならないと考える。